



(有) 三和開発工業で使用されている車輛



お客様の悩みを 解決でききる身近な存在に

有限会社 三和開発工業

代表取締役社長 龍 元気 さん

一番身近な存在に

三和開発工業は一九八七年に法人化され、今年三十二年目となります。龍さんが代表取締役に就任されてからは三年目とのことです。汲み取りや浄化槽の清掃、保守点検の他にも水回りの工事やハウスクリーニングなども行われているとのこと。

「汲み取りに関しては大川市内のみですが、ハウスクリーニングや水回りの工事は大川市近隣の市や他県からも依頼があります」

少し特殊な業種ではあるけれど、皆さんの生活の一部でもある業種だともお話された龍さん。お客様によっては毎月のように顔を合わせることもあるそうです。

「仕事柄、高い確率で顔見知りになれますし、特に大川市民にとっては身近な存在でい

れると思っています。お家のことでちょっと困ったことがあった時、言ってもらえたらなにか手助けできるようにしたいと思っていますし、出来ることは解決してあげたいとも思っています」

実際に顔を合わせた際、「こんなことは出来ないの?」と相談されることも。

「水回りのトラブルがあった時に新しい業者を探すのではなく、三和開発工業でなければ行きますよと言っています。ちょっとしたことならばサービスの範囲内とも考えていますから、なにかあったときには三和開発工業に言っておけばいいだろうと思ってもらえたら有り難いですね」

ハウスクリーニングは家のなかの様々な場所を行えるとのこと。初夏になるとエアコンの掃除をお願いされることも多いそうです。





「使っている薬品や器具が違うので、ご自身で掃除されるときとは全く違う効果が得られると思います。特にしっかりと掃除するとエアコンの効き方が違いますね。カビのニオイや汚れが気になる方は年に一度はされた方が良いでしょうと思います」

他にもレンジフードなどの掃除、時には退去後そのままの部屋のクリーニングを頼まれることも。

「自分で掃除するには限界を感じる場所や少し面倒だなと感じられる場所を頼まれることが多いですね。そういう時に思い出してもらえて、頼ってもらえるのはお客様にとつて身近な存在になれているのかなと思います」
今は水回りの工事やリフォーム

ムにも力を入れられているとのこと。

「まずは見積もりだけでも取ってもらえたらありがたいですね。そういうことまでしているというイメージがあまりないのですが、水回りのことはなんでもやります！という気持ちで仕事を受けています。自分たちでできるところは自分たちで、できないときはできる業者を紹介して、可能な限りお客様の悩みを解決できる存在でありたいと思っています」

人・地域の繋がり

災害支援に行かれることもあるとお話された龍さん。熊本地震や九州北部豪雨の際にも災害支援に向かれたそうです。

「朝倉へ支援に行った際には、小学校のプールに土砂が入ってしまっていて、それを一日で復旧することになりました。当日朝に出向いて、帰宅したのは翌日の早朝でした。粘土質な泥が何十センチも二十五メートルプールのなかに積もっていて、それを出す作業だったのですが、炎天下での作業だったので過酷ではありました。ですが、翌日には子どもたちがプールに入って楽しんでいたので、それを見た

ときはすごく嬉しかったですね」

本業の他にも大川青年会議所（以下、JC）に所属し、JCの様々な事業にも注力されている龍さん。

「JCの大きな目標として、豊かな社会を作るといふものがあります。そのためには豊かな街づくりが必要となります。地域の子どもたちを対象とした未来人スクールなども開催していて、そこでは毎年子どもたちと海外に行ったりもしていますね。今年も子どもたちと台湾へ行く予定です。こうして子どもたちが海外へ行くことによつて、視野が広がったりしてくれたいなと思います」

またJCに所属してとてもよかったと感じることもあるそうです。

「業種が少し閉鎖的とまでは行きませんが、他の団体や業種の方と関わるのが少なく、仕事も自社のみで行うことがほとんどでした。他の業種、例えば建設業の方であれば、仕事のなかで電気工事の方や建具の方と知り合うこともあると思います。この業種はそう簡単に他業種との繋がりが出来ませんでした。ですがJCに入ったことで、ただ仕事をこなしているだけでは知り合えなかった業種の方と繋がりができたのはすごく良

かったですね」

お客様からの「ありがとう」

夏休みの時期になると、作業中に子どもたちが寄つて来るともお話された龍さん。

「作業をしていると『なんしよつと？』と尋ねてくる子どもが多いですね。家に浄化槽があったり、業者の人がやって来ることがあったりというのは知っていても、浄化槽の仕組みまで知っている子どもはもちろん、大人でも知らない方が結構いらつしやいます。簡単に説明するならば、浄化槽は小さな川を作るイメージですね。川のなかにも岩や石に苔など微生物の塊がついています。そういう微生物がいろいろなものを食べて水を綺麗にしていきます。浄化槽でも似たようなことを行い、最後は消毒して透明な水が出ていきます。実は私自身、家業であるにも関わらず会社に入るまでは浄化槽の仕組みを知りませんでした。家庭で使用した全ての水が入ってきたあと、クリークに流れていくときには透明な水になっているのを見た時は、『こんなに綺麗になるんだ！』とすごく感動しました。子どもたちにもその様子を教えた時や、実際に透明になった水を見た時はすごい！と感動してくれました。

なかには『夏休みの自由研究にしてもいい？』と言ってくれる子もいました」
いつかは小学校などに出向いて、自分たちが普段使用している水がどこに行つて、どうなつていくのかも教えたいとお話されました。

「どうしても汚いイメージがある業種ですが、綺麗な水にする手伝いもしていることも教えたいですね」
子ども頃は、家業に対してあまりいい感情がなかったと話された龍さんですが、今は家業に対して感謝の気持ちを持つているそうです。

「きれいになった水を見て感動したのが偏見をなくす第一歩だったと思います。そこから様々なことを知つて、すごい仕事なんだなと思いました。実際に現場へ出向いて、お客様と顔を合わせて仕事をして『いつもありがとう』と言ってもらえたのもすごく嬉しかったです」

家業に誇りを持たれている龍さん。そんな龍さんの夢はなんでしょうか？

「まずは三和開発工業で働いている社員みんなが楽しく仕事をしたいなと思います。それからお客様と近い存在だと自負していますので、お客様から一番身近な企業だと思われたいですね」